人工知能（自然言語処理とデータ分析）技術を用いた人と機械の双方向の対話の実現

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

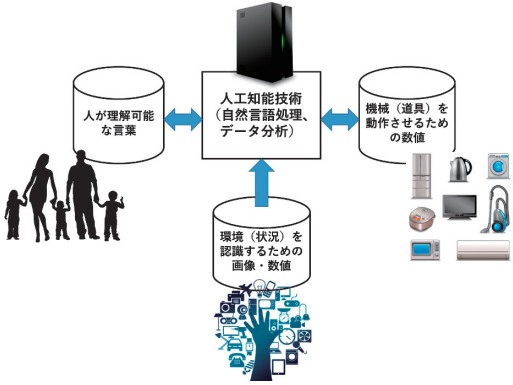
研究概要

キーワード　自然言語処理／人工知能／センサー／対話／言葉と数値

コンピュータは融通の利かない機械の代名詞であったが、何十年間も合格しなかったチューリングテスト（壁の向こうが人かコンピュータかを見分ける対話実験）にも合格するようなシステムが出現している。また、SiriやechoのようにIoTの中で実用的に使える人と機械の対話システムも急速な進歩を遂げつつある。

人工知能技術を用いて様々なセンサーによって獲得したデータを分析することにより、言葉で機械を動かしたり（自然言語理解）、センサー等で集めた数値データを分析し、スポーツ実況を自動的に行なったり（自然言語生成）するような、言葉と数値の変換を人と機械の対話技術として研究開発を進めている。

人が理解可能な言葉と機械（道具）を動作させるための数値の変換のため、センサーを用いて獲得する画像や数値データを併せて、自然言語処理、データ分析を行なう。



今後の展開やメッセージ

人工知能技術を適用するにあたって学習データは必要不可欠である。言葉と数値の対応データや、環境（状況）を認識するためのセンサーデータを大量かつ正確に収集することができる仕掛けも考えていきたい。

研究者情報

松井 くにお 教授・博士（工学）
工学部　情報工学科
所属研究所：情報技術AI研究所、AIラボ

研究者情報URL
https://www.kanazawa-it.ac.jp/kyouinroku/a/BHAAD.html
https://researchmap.jp/7000020485